

## 第2節 シンガポール (Singapore)

太田 浩・渡部 由紀

### 1. 単位制度、成績評価制度等に対する政府の規定・認証評価活動

#### (1) 国全体の高等教育制度の概要

シンガポールの高等教育機関は学位授与権のある大学とディプロマを提供する非大学型高等教育機関（専修学校）の大きく2つに分けられる。大学は3つの Autonomous University（国立大学法人）と私立大学がある。Autonomous Universityはシンガポール国立大学（NUS）、南洋工科大学（NTU）、シンガポール経営大学（SMU）の3校、私立大学は2005年に継続教育機関であったシンガポール経営学院（SIM: Singapore Institute of Management）が大学に昇格した SIM 大学（UniSIM）と外国の大学の分校が8校ある（表1参照）。また、シンガポールの大学と連携してそのキャンパス内で教育研究プログラム（主として大学院課程）を提供している海外の大学が11校ある（表2参照）。2009年における Autonomous Universities である3校への進学率は25%であった（Ministry of Education, 2009）。高等教育の大衆化が進む中、シンガポール政府は2015年までに進学率を30%に引き上げることを目標にしている。

表1. シンガポールに分校を設置している海外の大学

• INSEAD	• ESSEC: École supérieure des sciences économiques et commerciales (ESSEC Business School)
• University of Chicago Booth School of Business	• Digipen Institute of Technology
• German Institute of Science and Technology - TUM	• UNLV Singapore (Harrah Hotel College of The University of Nevada, Las Vegas)
• S.P. Jain Center of Management	• Tisch School of the Arts of Asia (New York University's Tisch School of the Arts)

(出所) Economic Development Board (2009)をもとに筆者作成。

表2. シンガポールの大学内に附置されている海外の大学

• Johns Hopkins University (International Medical Centre)	• 上海交通大学
• Georgia Institute of Technology (The Logistic Institute of Asia Pacific-NUS)	• Stanford University (Singapore-Stanford Bidesign)
• Massachusetts Institute of Technology (Singapore-MIT Alliance)	• 早稲田大学 (Waseda-NTU)
• University of Pennsylvania Wharton School (Wharton-SMU Research Centre)	• New York University School of Law (NYU Law in Singapore-NUS)
• Technische Universiteit Eindhoven	• Cornell University (Cornell-Nanyang Institute of Hospitality Management)
• Duke University (Duke-NUS)	

(出所) Economic Development Board (2009)をもとに筆者作成。

シンガポールのもう一種の高等教育機関であるディプロマを提供する国立の非大学型高等教育機関（専修学校）には 5 校のポリテクニクと 2 校の芸術分野の専門学校がある。ポリテクニクの就学年数は 3 年間で、エンジニアリング、商業、会計学、観光、ホスピタリティ・マネジメント、情報通信、デジタルメディア、バイオテクノロジー、マリンエンジニアリング、航海学、看護学などのコースがある。ポリテクニク卒業後、大学への編入学が可能となっている。

この他に、シンガポールには高度な職業教育を担う Institute of Technical Education（技術系高等専門学校—以下 ITE）がある。ITE では技術系の資格を提供する。

## （2）単位制度、成績評価制度等に関する規定、認証システム等の概要

これまで、シンガポールでは国のレベルで大学の制度を標準化せず、各大学の持つ質保証のシステムを基に運営されてきた。教学面の評価システムとして、NUS と NTU には University Committee on Educational Policy（教育政策委員会）と University Academic Audit Committee（学術監査委員会）、SMU には Academic Affairs Committee（学務委員会）がある（Ministry of Education, 2005, p. 27）。

しかし、2003 年に Quality Assurance Framework for Universities（大学質保証制度）が導入され、3 年毎にシンガポールの 3 大学（NUS, NTU, SMU）の自己評価報告書の審査をする外部評価制度が始まった。また、2005 年には NUS と NTU が法人化され、設立当時より大学法人（公設民営方式）として運営されてきた SMU を含めた 3 大学を、グローバル化に対応すべく大学の機能の多様化と競争力の推進を目指して、Autonomous Universities として発展させていくこととなった。これに伴い、財政の大半が国からの資金によって支えられているこれら 3 大学のアカウンタビリティを保証するための制度が導入され、下記の 3 項目に関して各大学は教育省と契約を結び、要件を満たすことを求められるようになった。

- 政策協定:教育省が定めた大学セクター全般の戦略的方向性
- 目標協定:各大学が設定する目標計画
- 質保証の構造:自己評価報告書とその外部審査

このような大学の法人化に伴って設定されたアカウンタビリティに関する保証制度は、それまでに大学が独自に設立した質保証のシステムを基に、国が大学の自己評価を査定する第三者評価制度を取り入れることにより、評価システムの向上を図ったものだと言える。

## 2. 大学の単位制度、成績評価制度、単位互換制度に関する事例紹介

シンガポールの 4 大学の中から、研究型総合大学であるシンガポール国立大学（以下 NUS）と南洋工科大学（以下 NTU）の二つの事例を紹介する。前項にも述べたが、シンガポールは大学の教育制度を政府レベルで標準化せず、大学の自治を尊重し、その上で政府が管理監督するという仕組みを取っているため、二つの大学の教育制度を比較しながら事例を見ていくこととする。

(1) 大学の概要

NUS と NTU はシンガポールの研究型総合大学として、学士、修士（コースワーク型とリサーチ型の二つのコース有）、博士課程のプログラム、また、いくつかのディプロマ・コースを提供している。

14 学部（内 3 学部は大学院のみ）を持つ NUS には、23,822 人の学部生、7,670 人の大学院生が学んでいる。留学生は全学生数の 35%（学部 5,173 名、大学院 4,491 名、交換留学生 1,424 名）を占める。また、学生にグローバルな教育経験を提供するために、4 カ国（中国、インド、スウェーデン、米国）に 7 つの海外キャンパスを持っている。また、パートナー大学との協力関係を推進するため、International Relations Office が設置され、国際教育交流プログラム（送出し・受入れ）の運営を行っている。

一方、NTU は 4 学部と 2 つの大学付属の自治教育機関、National Institute of Education（シンガポールで唯一の教員養成機関）と S Rajatnam School of International Studies（大学院）に、23,043 人の学部生、10,026 人の大学院生が学んでいる。留学生は全学生数の 25%（学部 4,445 名、大学院 3,735 名）を占める。また NTU には、国際教育交流を推進するオフィスが 3 つあり、それぞれ異なる役割を担っている。International Relations Office では、様々な国際教育交流プログラム（送出し・受入れ）の運営を行い、Global Immersion Program Office は数ある国際教育交流プログラムの中で NTU の学部生を対象とした海外留学プログラムである Global Immersion Program（送出し）を運営している。International Student Center は学生部に属し、NTU に在籍する留学生への支援を行っている。表 3 に各大学のプロフィールをまとめた。

表 3. NUS, NTU のプロフィール

	シンガポール国立大学(NUS)	南洋工科大学(NTU)
学部数	14 学部	4 学部 +2 つの大学付属自治教育機関 • National Institute of Education (教員養成機関) • S Rajatnam School of International Studies (大学院)
学生数		
学部生	23,822	23,043
大学院生	7,670	10,026
合計	31,492	33,069
留学生数		
学部生	5,173	4,445
大学院生	4,491	3,735
交換留学生	1,424	データなし
合計	11,088	8,180
全学生数に占める割合	35%	25%
国際教育関係オフィス	• International Relations Office	• International Relations Office • Global Immersion Program Office • International Student Center

学年暦は NUS では 2 学期制をとっており、第 1 学期は 8 月から 11 月、第 2 学期は 1 月から 5 月である。各学期は 17 週間で、そのうち授業は 13 週間となっている。第 2 学期終了後の休暇中の間に、オプションな 2 つの特別学期がある。NTU も学士課程と修士課程（コースワーク型）は NUS の学年暦と同じであるが、修士課程（コースワーク型）の中には 3 学期

制を取っているプログラムもある（表 4 参照）。このうち、英語で提供されているプログラムは 7 月、中国語で提供されているプログラムは 3 月に学年暦が始まる。また、修士課程（リサーチ型）の学年暦は 2 学期制を取っており、第 1 学期は 8 月から 1 月、第 2 学期は 1 月から 8 月で、各学期が前期と後期に二分されている（表 5 参照）。

表 4. NTU の 3 学期制の修士課程（コースワーク型）のプログラムの学年暦（2009-2010）

プログラム名	学年暦
MBA	1 学期：7 月 27 日～10 月 24 日 2 学期：11 月 2 日～2 月 20 日 3 学期：3 月 1 日～5 月 29 日 (各学期の授業期間は 13 週間)
M.Sc. (Financial Engineering)	1 学期：7 月 27 日～10 月 31 日 2 学期：11 月 2 日～2 月 27 日 3 学期：3 月 1 日～6 月 19 日
S. Rajaratnam School of International Studies • M.Sc. (International Political Economy) • M.Sc. (International Relations) • M.Sc. (Strategic Studies) • M.Sc. (Asian Studies)	1 学期：7 月 27 日～10 月 31 日 2 学期：11 月 9 日～2 月 27 日 3 学期：3 月 8 日～6 月 5 日 (各学期の授業期間は 13 週間)
Programs in Chinese (Mandarin) • M.Sc. (Managerial Economics) • Master of Public Administration	1 学期：3 月 9 日～5 月 29 日 2 学期：6 月 8 日～8 月 29 日 3 学期：10 月 12 日～1 月 6 日

表 5. NTU の修士課程（リサーチ型）の学年暦

第 1 学期	8 月 10 日～1 月 10 日
前期	8 月 10 日～9 月 30 日
後期	10 月 1 日～1 月 10 日
第 2 学期	1 月 11 日～8 月 29 日
前期	1 月 11 日～3 月 31 日
後期	4 月 1 日～8 月 29 日

## (2) 単位制度に関する規定並びに質を保證する活動の概要

### ● 課程年数と卒業単位数と科目内容

#### ① 学士課程

学士課程の年数は NUS、NTU 共に 3 年間と 4 年間がある。NUS は 3 年課程を学士号、4 年課程を名誉学士号としている。工学部と音楽部は名誉学士号のみを提供している。一方、NTU は 3 年課程で学士号が取得できるのは商学 (Business) と会計学 (Accountancy) のみであり、他の学部は全て 4 年課程となっている。

学位取得に必要な単位数は、NUS は 3 年課程の学士号で 120 単位以上、4 年課程の名誉学士号で 160 単位以上としている。一方、NTU は 3 年課程の学士号は 108 単位以上、その他の学士号は 144～146 単位以上となっている。また、工学系の場合は 153～155 単位以上となっている。

学士課程のカリキュラムは、NUS、NTU 共に一般教育科目、専門教育科目、自由選択科目 (Unrestricted Electives) からなる。

表 6 と表 7 は NUS と NTU の 3、4 年の学士課程カリキュラムの内容を比較したものである。NUS は大学レベルで卒業単位数や基本的科目の単位数を定めているが、NTU は大学レベルでの規定を設けず、学部・学科において定めているようである。

表 6. NUS, NTU の 3 年の学士課程のカリキュラム

Degree Requirements	NUS	Degree Requirements	NTU
	3-year Programs (Bachelor)		3-year Programs (Marketing)
	MC*s		AU**s
University Level Requirement		General Education Requirement	
General Education	8	Core	9
Singapore Studies	4	Prescribed Electives	6
Breadth	8		
Sub-total	20	Sub-total	15
Program Requirement		Major Requirement	
Faculty	12-16	Core	73
Major	60-72	Prescribed Electives	0
Sub-total	72-88	Sub-total	73
Unrestricted Electives	16-28	Unrestricted Electives	20
Minimum MCs required for graduation	120	Minimum AUs required for graduation	108

\*MC = Modular Credit

\*\*AU = Academic Unit

表 7. NUS, NTU の 4 年の学士課程のカリキュラム

Degree Requirements	NUS	Degree Requirements	NTU		
	4-year Programs (Bachelor with Honor)		4-year Programs		
	MCs		Art, Design & Media	Economics	Bio-engineering
			AUs	AUs	AUs
University Level Requirement		General Education Requirement			
General Education	8	Core	12	6	12
Singapore Studies	4	Prescribed Electives	15	15	15
Breadth	8				
Sub-total	20	Sub-total	27	21	27
Program Requirement		Major Requirement			
Faculty	12-16	Core	69	28	109
Major	88-110	Prescribed Electives	39	60	12
Sub-total	100-126	Sub-total	108	88	121
Unrestricted Electives	18-36	Unrestricted Electives	9	36	9
Minimum MCs required for graduation	160	Minimum AUs required for graduation	144	145	157

## ② 修士課程

修士課程はリサーチ型とコースワーク型の 2 つのコースがある。リサーチ型修士課程の卒業要件は、NUS では 2~6 専門科目 (8~24 単位)、卒業演習 (Pass/Fail)、修士論文 (3 万語) の提出となっている。また、最低 6 ヶ月はシンガポールで大学に在籍し、最長で 3 年以内に修士課程を修了しなければならない。一方、NTU では 3 専門科目 (9 単位)、修士論文の提出、その他課程ごとの必要事項がある。最短で 1 年間、最長で 3 年間、通常 2 年間かかる。

コースワーク型修士課程は NUS においては、基本的に 40 単位で 1 年間、または 80 単位で 2 年間となっている。入学時にそれまでの学問知識の背景が同種の学生で構成されるプログラムは 1 年間の修士課程、入学時にそれまでの学問知識の背景が異なる学生で構成されるプログラムは 2 年間の修士課程と定義されている。1 年間、2 年間のコースともに、全単位数のうち、5000、6000 番台の専門科目、もしくは専門分野に関連した科目を 30 単位以上修得しなければならない。残った単位数は専門分野外の科目を履修することも可能である。また、最大で 16 単位分をコースワークの代わりに、修士論文、またはプロジェクトで代替することも可能である。一方、NTU では 30 単位で 1 年間のプログラムが多い。コースワークだけのものと、30 単位のうち 6 単位の修士論文を含むものがある。

コースワーク型修士課程のプログラムの中で、MBA や公共政策に関するプログラムは NUS、NTU とともに上記の規定に当てはまらない傾向がある。これらのプログラムは課程年数が長く、かつ単位数が多い。また、プログラムの一部を海外の提携大学で学ぶ場合は、単位数が増える傾向にある。

### ● 1 科目の単位数

1 科目の単位数は学士・修士課程ともに NUS では基本的に 4 単位で、NTU では 3 単位である。ラボなどの実習科目は単位数が少ない傾向にあり、NUS では 2 単位、NTU では 1 単位である。また、学士課程の卒業論文やプロジェクト、またインターンシップは単位数が多い傾向にあり、NUS では 8~12 単位、NTU では 10 単位となっている。

### ● 単位の換算方法

NUS と NTU では使っている単位の表記も単位の換算方法も異なる (表 8 参照)。NUS では Modular Credit (MC) という単位表記を使い、NTU では Academic Unit (AU) という単位表記を使っている。NUS では 1 MC のワークロードを週に 2.5 時間として算出する。ワークロードには講義、チュートリアル、ラボなどの授業内時間だけでなく、宿題、個人・グループによる自学自習時間も含まれる。1 学期の授業期間が 13 週間とすると、1 学期間の 1 MC のワークロードは 32.5 時間という事になる。

一方、NTU は学士課程の 1 AU のワークロードの算出に、次の基準を設けている。ワークロードの算出には授業内時間 (contact hour) だけでなく、自学自習時間も考慮されるということであるが、それに関する具体的な時間配分については明記されていない。

1. 1AU=1 週間につき 1 時間の講義・チュートリアル
2. 1AU=1 週間につき 3 時間のラボ・フィールドワーク

また、NTUの修士課程の場合、1 AUのワークロードは13時間の授業内時間（講義、チュートリアル、ラボ等の教員とのcontact hour）と定義されている。

表 8. NUSとNTUの単位と単位換算方法

	NUS	NTU
単位	Modular Credit	Academic Unit
ワークロードの定義	学士・修士課程 授業内時間+自学自習時間	学士課程：授業内時間+自学自習時間 修士課程：授業内時間
ワークロードの時間数	学士・修士課程 • 1MC=1週間につき2.5時間	学士課程 • 1AU=1週間につき1時間の講義・チュートリアル • 1AU=1週間につき3時間のラボ・フィールドワーク • 自学自習時間の時間配分については明記なし。 修士課程 • 1AU=1週間につき1時間の教員とのcontact hour（講義、チュートリアル、ラボ等）

● 単位の表記

NUS, NTUとも履修登録関係のウェブサイト上で科目の情報が検索できる。記載されている科目に関する情報はコースナンバー、タイトル、内容、単位数などである。

NUSはさらに各科目（NUSではモジュールという用語を使っている）のワークロードの詳細も載せている。ワークロードは、5つの学習コンポーネント（表9）の時間数で示されている。例えば、4単位の科目のModule Workload (A-B-C-D-E)の項目に“2-1-0.5-1.5-5”と5つの数字が並んでいるとすると、これらの数字は各コンポーネントのワークロードとして1週間に費やす時間数を示している。講義に2時間、チュートリアルに1時間、ラボに30分、宿題等に1時間半、講義等の準備に5時間、従って4単位の科目の1週間のワークロードは10時間ということになる。

表 9. NUSにおけるモジュール（科目）のワークロードの5つのコンポーネント

Component	Description	Remarks
A	No. of Lecture hours	Actual contact hours per week
B	No. of Tutorial hours	Actual contact hours per week
C	No. of Laboratory hours	Actual contact hours per week
D	No. of hours for projects, assignments, fieldwork, etc	This caters to assignments, independent studies, fieldwork, and other forms of continuous assessment that contribute towards the final grade of the module.
E	No. of hours for preparatory work	This refers to the number of hours a student is expected to spend each week in preparing for lectures and tutorials.

NUS, NTU共に、全ての科目に科目ナンバーをつけている。科目ナンバーは学科を示す2~3文字のアルファベットとレベルを示す数字で構成されている。学士課程においてNUSは1000~

4000、NTU は文科系の科目は 3 桁、理工系の科目は 4 桁で、100/1000～400/4000 を使っている。大学院課程の科目は NUS では 5000～6000、NTU ではコースワーク型修士課程の科目は 6000 番台、修士課程（リサーチ）の科目には 7000 番台が主に使われている。

### (3) 成績評価制度に関する概要

成績評価に関して、NUS では相対評価と絶対評価の双方、NTU では絶対評価に基づいて行っている。NUS では科目のレベルに応じて、相対評価と絶対評価を使い分けており、基本的にはクラスサイズの小さい、高いレベルの科目では絶対評価、クラスサイズの大きい、低いレベルの科目では相対評価により、学生の学習成果を評価している。また、最終成績の評点は、アカデミックの分野の違いを考慮し、グレードのモデレーション（grade moderation）を条件としている。さらに、評点（レターグレード）の配分も成績評価者の判断により、柔軟に適用されている。一方、絶対評価を基準にしている NTU では、教員は各科目における学習目標（到達点）を設定し、学生の学習成果を評価している。

また、NUS、NTU 共に GPA (Grade Point Average) 制度を導入しており、履修・成績に関するウェブサイトで、その制度について学生向けに説明している。GPA 制度では、5 つのレターグレード（A, B, C, D, F）に+・-を加えて 11 段階で評価し、各レターグレードはグレードポイントの数値と対応している（表 10）。NTU では、評点（レターグレード）は、100 を満点とする成績素点の範囲（レンジ）によって決められているが、その素点の範囲と評点（レターグレード）がどのように対応しているか（換算表）については公開されていない。

表 10. 成績評点

Letter-grade	Grade point
A+	5.0
A	5.0
A-	4.5
B+	4.0
B	3.5
B-	3.0
C+	2.5
C	2.0
D+	1.5
D	1.0
F	0.0

成績評価の提出に関しては、NUS では試験期間の最終日から 10～12 日以内に教員はその提出が求められる。NTU では試験期間の最終日から 1 週間程で教員が学部長室に採点表（評価表）を提出し、その 1 週間後に学部長室から本部の Office of Academic Services（学務部）に最終的な成績評価が提出される。



(4) 学生交流活動における単位互換制度に関する規定並びに質を保証する活動の概要

● 単位認定（編入）に関する規定

NUS, NTU 共に、大学レベルで自大学において修得しなければならない最低限の単位数を規定している（表 11・12 参照）。その規定を満たしていれば、他大学で修得した単位を学位取得（卒業）に必要な単位として算入することが認められている。但し、他大学で修得した科目の評点は、Pass/Fail に変換され、GPA 及び学位の等級には反映されない。

表 11. NUS の自大学で修得すべき最低単位数に関する規定

学士課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学位取得に必要な単位数の (a) 50%以上、もしくは (b) 80 単位以上を NUS で修得しなければならない。これらの単位は評点（レターグレード）のある科目で、評点を受けた単位（Pass/Fail の科目は不可）でなければならない。</li> <li>● 専門課程の単位数の 60%以上が評点（レターグレード）を受け、累積平均評価点（Cumulative Average Points: CAP）の計算に入っていないなければならない。専門課程の単位数の残りの 40%は他の高等教育機関から編入した単位、または Pass/Fail の科目の単位で修得することも可能である。</li> <li>● 副専攻がある場合には、副専攻の必要最低単位数（24 単位）のうち 16 単位以上が評点（レターグレード）を受け、累積平均評価点（CAP）の計算に入っていないなければならない。残りの 8 単位は他の高等教育機関から編入した単位、または Pass/Fail の科目の単位で修得することも可能である。</li> </ul>
修士課程 （コースワーク型）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学位取得に必要な単位数の 50%以上を NUS で修得しなければならない（これは大学レベルでの規定で、各学部でより厳密な条件を別途定めることができる。）</li> </ul>

表 12. NTU の自大学で修得すべき最低単位数に関する規定

学士課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3 年間の学士課程プログラムの場合、少なくとも 2 年間は、NTU で学業を修め、評点（レターグレード）を受けた科目の単位が少なくとも 66 単位あること。</li> <li>● 4 年間の学士課程プログラムの場合、少なくとも 3 年間は、NTU で学業を修め、評点（レターグレード）を受けた科目の単位が少なくとも 77 単位あること。</li> <li>● 4 年間の学士課程プログラムに 2 年生からの編入学が認められた者は、少なくとも 2 年半の間は NTU で学業を修め、評点（レターグレード）を受けた科目の単位が少なくとも 66 単位あること。</li> <li>● 上記の規定を満たしている限り、他の高等教育機関で修得した単位は編入できるが、そこで修得した評点（レターグレード）は Pass/Fail に変換され、GPA には算入されない。</li> </ul>
修士課程 （コースワーク型）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 何単位まで他大学からの単位の編入ができるかという規定については不明。単位編入が認められた科目は学位取得（修了）に必要な単位として認められるが、学士課程と同様に、GPA には算入されない。</li> </ul>

● 交換留学プログラムにおける単位互換制度

NUS では、交換留学プログラムそのものは International Relations Office (IRO) が運営して

いるが、交換留学プログラムで修得した単位の編入手続きに関しては、各学部の Dean's Office (学部長室) の扱いとなっている。各学部のウェブサイトには交換留学プログラムのページがあり、学部により情報や内容の程度に差はあるが、協定校で修得した単位の編入手続きに関して説明されている。経営学部、コンピュータ学部、理学部では自学部のカリキュラム上の科目に相当するパートナー大学の科目をリストにして提供し、単位互換が可能な科目について、明確に示している。

各学部に交換留学プログラムのコーディネーターとアカデミック・アドバイザー (Study Exchange Program (SEP) coordinator and academic advisor) がおり、協定校で修得した単位の編入についての審査を行っている。また、General Education (一般教養) のモジュール (科目) に関する単位編入は、General Education Committee (一般教養委員会) が認定を行っている。

NTU では単位編入の手続きに関する詳細な情報は得られなかった。ただし、NTU の特徴としては、外国の大学で修得した科目が、たとえ NTU で提供されていないものであっても (相当する科目がなくても)、自由選択科目として編入することを認めていることである。その際、科目名は海外の大学で修得した科目名をそのまま表記する。また単位編入の認定において、一般的に理工学系の学部・学科は保守的な傾向が見られるとのこと。これはカリキュラムが厳格に確立しており、必修科目も多く、段階的な学習を要する学問的性質によるところが大きいようである。

- **ダブル/ジョイント・ディグリー・プログラムにおける単位認定の規定**

NUS, NTU 共に、海外の大学だけでなく、学内の学部間も含めて数多くのダブル/ジョイント・ディグリー・プログラムを提供している (表 13)。海外の大学とのダブル/ジョイント・ディグリー・プログラムの多くが欧州、豪州、米国の大学と行われているが、NUS, NTU とともにアジア圏の大学と行われているものもいくつかある。NUS は日本とのプログラムが 2 つ (学士課程の理学と人文社会科学)、中国とのプログラムが 2 つ (修士課程のビジネスと中国語)、韓国・中国とのプログラムが 1 つ (修士課程のビジネス) ある。

NTU は中国とのプログラムが 2 つ (ビジネスと医学)、インドとのプログラムが 1 つ (工学)、日本とのプログラムが 1 つ (ビジネス) ある。ASEAN 諸国と行われているダブル/ジョイント・ディグリー・プログラムは今のところない。

表 13. NUS, NTU のダブル/ジョイント・ディグリー・プログラムの数

	海外 ダブル・ディグリー		海外 ジョイント・ディグリー		学内 ダブル・ディグリー	
	NUS	NTU	NUS	NTU	NUS	NTU
	学士課程	5	1	5	0	9
修士課程	14	5	5	5	4	0

NUS では、海外の大学とのジョイント/ダブル・ディグリー・プログラムにも自大学で修得すべき最低単位数に関する規定が適用される。また、学士課程のダブル・ディグリー・プログラムにおいては、ダブル名誉学士号は 5 年で 200 単位以上、名誉学士号と学士号のダブル学士号は 4 年半で 180 単位以上修得を学位取得の要件としている。

## (5) 考察

シンガポールでは、政府が大学の教育制度や仕組みを標準化していないため、大学の自治の下、各大学が教学面に関する様々なシステムについて、主として欧米の大学を参考にしながら独自に構築している。よって、この報告書においても政府レベルの状況は、ほとんど記述すべきものがなく、SNUとNTUの2大学の事例報告が中心となっている。この2大学では、単位の名称、卒業に必要な単位、1単位に対するワークロードの考え方や時間数など多くの点で異なっており、むしろ共通点(学年暦、成績評点、GPA制度)のほうが少ない。ただし、両大学ともその制度や仕組みは理解しやすく、ウェブサイト上でも明解かつ丁寧に説明されており、情報公開度は非常に高い。教育の質保証についても、各大学が自主的に取り組んでいるという印象を受け、政府がどこまで具体的に管理監督を行っているのかは把握できなかった。

SNUとNTUはともにアジアにおける有数のグローバルな大学になることを目指し、国際化施策の一環として国際教育交流を積極的に推進している。アジアの教育ハブを構築する政策及び将来的な移民としての高度人材の確保を主眼においた留学生政策の下、積極的に留学生の受入れを進めるだけでなく、自校学生の海外留学の機会を提供するための様々なプログラムを実施している。両大学ともに、多くのジョイント/ダブル・ディグリー・プログラムを外国の著名大学と実施しており、それが教育の質に対する国際的な評価を得ているという自信につながっている。また、この2大学においては、ジョイント/ダブル・ディグリー・プログラムや交換留学プログラムを通じて、外国の大学で修得した単位を組み入れるための単位互換・認定制度の整備状況について、目を見張るものがある。それに関する情報が詳細にわたって、ウェブサイト上で公開されている点も特筆すべきである。具体的には、留学先の大学で取得した単位の算入方法、評価の取り扱い、単位互換の申請から認定までのプロセスなどが、実に明確に示されており、グット・プラクティスとして、日本をはじめ多くのアジアの大学にとって参考となるべき事例を提供している。

大学数が少ないとはいえ、シンガポールは、政府が教学面を含めた広範囲な自治を認め、同時に各大学が国際教育交流に関わる制度や仕組みの整備を進め、着実に実績をあげていることから、どこまで政府が関与すべきか(どこまで大学の裁量権を拡大すべきか)という点について、教育の質保証への対応を含めて、改めて考えさせられる事例である。高等教育のグローバル化が進展する中、大学間の連携や実績の積み重ねから最適な仕組みに収斂させていくというのも一つの手法なのかもしれない。

最後に、グローバル化した知識基盤社会への対応を国是とし、同時に少子高齢化への対応を求められている都市国家シンガポールの研究型総合大学では、その国際的な教育研究交流の対象国としては北米、欧州と中国に目が向きがちである。これは、何もシンガポールに限ったことではなく、他のアジア諸国でも研究型大学では、知の創出をめぐる世界的な大学間の競争を背景として、大学、教員(研究者)、学生の興味・関心は、欧米志向が強く、留学生獲得の点からは、中国、インド、ベトナムに集中しがちである。それをアジア諸国全般に誘導することは決して容易ではない。よって、外交的な意義、政治経済社会における地域的統合と連携した学術交流、国際協力の意義などを明確に示し、政府間の協力と支援がなければ、アジアにおける広範な大学間の学生相互交流は難しいのではないかということを実感した。

## 参考文献

- Economic Development Board (2009) シンガポールの教育制度 (2010年3月24日、  
[http://www.edb.gov.sg/edb/sg/jp/index/Guide\\_to\\_Investing\\_in\\_Singapore/manpower/education.html](http://www.edb.gov.sg/edb/sg/jp/index/Guide_to_Investing_in_Singapore/manpower/education.html) に  
アクセス)
- Ministry of Education (2009) FY 2009 Committee of Supply Debate: 3rd Reply by Senior Minister of State  
RAdm (NS) Lui Tuck Yew on Supporting Singaporeans in Education (2010年3月24日、  
<http://www.moe.gov.sg/media/speeches/2009/02/10/fy-2009-committee-of-supply-de-2.php> にアクセス)
- Ministry of Education (2005) Autonomous Universities: Towards Peaks of Excellence by the Steering  
Committee to review autonomy, governance and funding. (2010年3月24日、  
<http://www.moe.gov.sg/media/press/2005/UAGF%20Preliminary%20Report.pdf> にアクセス)